

でんでら通信 第百二十四号 令和六年八月

八月二十三日（金）施餓鬼供養会

準備の都合上、前日までにお志をあげていただきますようお願いいたします。

十時より山門、新亡施餓鬼供養会

今年初盆を迎えられたお家の方は、準備の都合上、おまいり人数をご連絡ください。
また当日までに白木のお位牌をお持ちください。

十一時より檀信徒施餓鬼供養会

古い旗、塔婆は本堂の箱にお入れください。
当日供養し、新しい旗、塔婆をお渡しします。

坐禅会

八月三十一日（土）十時に坐禅会を開催します。
みなさんのご参加をお待ちしております。

胸が痛む

またしても痛ましい児童虐待の事件がありました。
今年5月、犬山市の小学1年、島崎奈桜さん（7才）が母親の内縁の夫、倉田凱容疑者（32才）から暴行を受けたとして死亡し、倉田容疑者が傷害致死の疑いで、母親の島崎みなみ容疑者（33才）が保護責任者遺棄致死の疑いで逮捕されました。

奈桜さんは二〇二三年から二回、児童相談センターに一時保護されていますが、捜査関係者によりまずと、過去に頭の切り傷や体の広い範囲であざが確認されていて、警察は奈桜さんが倉田容疑者から日常的に虐待を受けていた可能性もあるとみて捜査しています。（ネットニュースより）

奈桜さんは、小学校の入学式にはマスクを着けて登校しました。顔のアザを隠すため母親が着けさせたようです。晴れの入学式にもかかわらず、アパートの一室で突然現れた母親の知り合いの男がやってきて一緒に生活を始める。やがて気に入らないと殴られ、痛めつけられ、助けを求めるにも唯一の頼れる母親は見えて見ぬふり、どんなに辛いことだったでしょう。憎しみの目で相手を睨んだことでしょう。泣き叫んで母親を求めたことでしょう。虐待が知れて、児童相談センターで一時保護されてもお母さんのいる自宅に帰りたいといって、帰ったのですが、帰るとまた同じように男に虐待を受ける。母親は無視する。想像しただけで怒りがこみあげてきます。何とかならなかったのか。

法事の時に勤める「菩提和讃」（ぼだいわさん）というお経があります。この中に、
それ人間の身を受けて この世に生まれ来ることは 爪の先端に置ける土
という文言があります。

この大きな地球上に人間として生を授かるということは、足元の大地の土と、土を手にとって爪の上に載せたわずかな土との差ほどの違いがあるということとです。あらゆる生命には、微生物、植物、動

物などいろいろあります。そんな中で人間として生まれてきたことは、すごく稀な可能性の中から誕生してきたのです。

また父母恩重經（ふぼおんじゅうきょう）というお経があります。父母が自分の命を懸けてわが子を護ろうと育ててくれた恩が書かれています。親の愛情は海より深し、そんなお経です。人は一人では大人になれるわけでもなく、周囲の愛情があればこそであります。

どんな星のもとに、この世に生を受けるかは誰にもわかりません。人として生まれても、平和な国もあれば乱れた国もあります。愛情豊かな家庭もあれば子供を邪魔者扱いする大人もいます。子どもは親を選べません。

お盆を迎えるにあたり、今私たちはここまで大きく育ててくれた父母、祖父母、兄弟などご先祖様に感謝の念をもって手を合わせなければなりません。そこには人の力では計り知れない大きな縁の不思議なところがあります。

犬山市の事件は、これだけ世間で児童虐待が言われている中で、またしても取り返しのない家庭環境を作ってしまった現代社会の闇があります。

奈桜さんにとつての、七年という人生はあまりに可哀そうな人生。奈桜さんの楽しかったこととはなんだったのでしょうか。両容疑者に思いやりがあれば・・・邪悪な心をどうにかできなかったのか。

奈桜さんのご冥福を心よりお祈りします。今度生を受けるならば、どうか、どうか愛情のある家庭に生まれてくることを心から願います